

おおやみち

第56号

平成18年(2006年)7月15日
滋賀県立安土城考古博物館

財団法人滋賀県文化財保護協会調査成果展・第32回企画展

丸木舟の時代

—びわ湖と古代人—



平文の丸木舟跡出土遺物
滋賀県教育委員会蔵

平成十八年七月十五日(土)

〜九月十日(日)

「丸木舟の時代」

「びわ湖と古代人」

我国最大の淡水湖であり、また滋賀県のシンボルである琵琶湖。この湖は、大昔から現在に至るまで、漁業・農業などの生業を通して、あるいは、湖上交通による列島規模の物流ルートとして、人々の生活と深く関わってきました。

それを証明するように、琵琶湖周辺にある遺跡から、縄文時代の丸木舟が相次いで出土しており、総数は三十艘にのぼります。これらの遺跡の発掘調査では、丸木舟が活躍した縄文時代の湖辺の生活を具体的に示す数多くの出土資料が得られています。

今回の展覧会では、琵琶湖周辺から出土した縄文時代の丸木舟を中心に、丸木舟を作る技術と使う生活の側面から、湖国の縄文時代と丸木舟について考えます。

また、準構造船の船材や舟形木製品、船形埴輪などから丸木舟以降の舟の変遷やマツリについても考えていきます。



長命寺湖底遺跡出土丸木舟
(滋賀県教育委員会蔵)

主な展示資料

入江内湖遺跡出土丸木舟・漆製品

(滋賀県教育委員会蔵)

松原内湖遺跡出土丸木舟・櫂

(滋賀県立琵琶湖博物館蔵)

尾上浜遺跡出土丸木舟

(滋賀県教育委員会蔵)

長命寺湖底遺跡出土丸木舟

(滋賀県立琵琶湖博物館蔵)

下長遺跡出土準構造船部材

(守山市教育委員会蔵)

上高砂遺跡出土舟形木製品

(大津市教育委員会蔵)

牛西遺跡出土舟形木製品

(東近江市埋蔵文化財センター蔵)

新開四号墳出土船形埴輪

(栗東歴史民俗博物館蔵)

関連行事

●記念シンポジウム「びわ湖と古代人」

日時 平成十八年八月十三日(日)

午後一時～五時

場所 当館セミナールーム

基調講演 「丸木舟・舟・漕ぎ」

「縄文人の森林資源利用と広域交流」

教育短期大学助教授 網谷 克彦氏

事例報告一 「滋賀県出土の丸木舟」

(財) 滋賀県文化財保護協会主任

事例報告二 「湖辺の縄文遺跡」

(財) 滋賀県文化財保護協会主任

中村 健一

(財) 滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

平成十八年度の調査と関連事業

今回は、調査整理課が平成十八年度に実施する整理調査と公開事業を紹介いたします。

継続的に整理調査を実施しているのは、縄文時代の動物の足跡が見つかった草津市津田江湖底遺跡や平安時代・近世の各地の土器類が出土している大津市浮御堂遺跡、大津市関津遺跡、弥生時代の集落跡である守山市赤野井浜遺跡、丸木舟をはじめとする多彩な縄文時代の遺物が出土した米原市入江内湖遺跡、縄文時代の広範な交流を示す土器類が出土した高島市弘川個・弘川宮ノ下遺跡です。また、今年度から古墳時代の集落である守山市弘前遺跡の整理調査を始めました。

これらの成果については、「発掘調査報告書」として刊行しますが、弘前遺跡についての中間報告を含めた整理調査公開事業「あの遺跡は今! Paris」を八月二十日(日)に開催します。調査中の出土品の展示の他、

拓本などの整理作業体験やクイズ、自由研究相談等、親子で楽しめる内容を考えています。また、平成十九年二月にも整理調査成果報告会を開催する予定です。

ご期待ください。



収蔵資料紹介

湯ノ部遺跡1号木簡

縦一七四㎜ 横一一〇㎜ 厚さ二〇㎜

湯ノ部遺跡は野洲市西河原に所在する、弥生時代から奈良時代の遺構が重複して見つかった遺跡で、この木簡は天武朝（七世紀後半）ころの建物を区画する溝から出土したものです。側面に丙子年十一月の日付けを持つ厚さ二センチのブック型の特異な文書木簡で、出土した遺構や文書の内容から、天武五年（六七六）のものと推定されています。内容は律令に定められている、上級の官司にあって申請文の文書様式の一つである「牒」で、文書を作成する際に、手本として活用されたと考えられます。

書かれている元の文書は玄逸という人物が、近江国司ないし野洲郡司にあって申請したもので、文字が少なくないため詳細は明らかではありませんが、「藤」「藤人」という表現から、古代の役人の登用に關わる、いわゆる藤位制の前身に關連するものです。すなわち藤原令以前の法令によって定められた「藤人」制により、天武四年の五月「藤人」に認定された玄逸が、翌年の二月になってもその御蔭を被っていないことを訴えたものとみられます。御蔭の内容は明らかではありませんが、「養官丁」という文字から仕丁の受給に關る規定と考えられます。「日本書紀」天武五年

四月条を見ますと、地方の有爵者の子息が兵衛として出仕することを許す法令が出されています。一つの可能性として、有爵者の父を持つ玄逸が、前年の五月に兵衛として出仕することを内定されたが、翌五年二月以降十一月になっても、出仕に關わる仕丁の給付に預からなかったため、この牒を提出したとみられます。この木簡がこうした初期律令期にお

丙子年十一月申文記
 ・藤玄逸去五月□□藤人
 自後二月己未□□養官丁
 久藤不調□□藤人
 ・次之□□丁□□藤人
 □□反於□□
 我謹謹也



ける文書の手本とするなら、この木簡を保管していた施設としては、やはり天武朝ころこの地に所在していた国家的な機関とみるのが自然と言えるでしょう。
 （大橋信彦）

安土城郭調査研究所通信

下街道のゆくえ―平成十八年度の調査

現地発掘調査の最終年次にあたる今年度は、安土町と旧能登川町の境界である北腰越峠の南側、県道とJＲに挟まれた三角地の調査を行います。信長は安土城下町振興のために城下町を通る下街道を整備しました。安土山南面を通る下街道は、県道と一部重なっていますが、北腰越付近にかけては道が付け替えられており、本来のルートは失われています。今年度の調査では、失われた下街道のルート発見を目指します。合わせて下街道近くにあってと思われる堀の確認も行います。

環境整備ではこれまでに大手門周辺整備の石畳や石垣整備を終えましたが、今年度末には残る部分もほぼ整備が完了し、安土城の正面景観がよみがえることとなります。

古文書調査では安土町石寺に残る光善寺文書と石寺区有文書の調査を行います。石寺は六角氏の居城観音寺城の城下町として知られており、安土築城前後の資料の発見が期待されます。

また史跡観音寺城跡調査整備基本構想・基本計画の策定を二年計画でスタートします。すでに保存管理計画の策定を終え、いよいよ調査整備事業実現に向けて、次のステップに入ります。

博物館の主な催し

10月	9月	8月	7月	月
7月15日(土)～9月10日(日) 第32回企画展 「丸木舟の時代—びわ湖と古代人—」				展示
15日(日) 特別展「近江シンボリズム」(複製の城・善徳の城) 時間:午後1時、午後5時	7日(土) 11月19日(日) 秋季特別展「歴史の城・善徳の城」複製本展覧の展示(複製1) 秋のお茶会(当日受付、約100名) 時間:午前10時半～午後3時 場所:土曜敷地内 会費:50円(実費)	3日(日) 名作複製展覧会(当日受付、140名) 作品名:「天守の裏」(一九八〇年作、主演:田村均也) 時間:午後1時30分 場所:志保セミナールーム 参加費:無料	23日(日) 博物館講座「丸木舟の復元過程」(当日受付、140名) 講師:中川正人氏(福文化財保護協会会長兼主任) 時間:午後1時30分～午後3時	博物館の行事
9日(祝) 秋のお茶会(当日受付、約100名) 時間:午前10時半～午後3時 場所:土曜敷地内 会費:50円(実費)	10日(日) 博物館講座「歴史の城・善徳の城」複製本展覧の展示(複製2) 講師:長谷川幸和氏(福文化財保護協会理事) 時間:午後1時30分～午後3時	17日(木) 体験博物館「習者になつてみよう」(要申込、先着30名) 時間:午後1時30分、約2時間 場所:志保敷地内 材料費:50円(実費)	27日(木) 子ども考古学教室(2日連続、要申込、先着40名) 対象:小学5・6年生(保護者同伴可) 場所:志保、豊楽現場 参加費:無料	28日(金)
15日(日) 特別展「近江シンボリズム」(複製の城・善徳の城) 時間:午後1時、午後5時	7日(土) 11月19日(日) 秋季特別展「歴史の城・善徳の城」複製本展覧の展示(複製1) 秋のお茶会(当日受付、約100名) 時間:午前10時半～午後3時 場所:土曜敷地内 会費:50円(実費)	16日(木) 体験博物館「習者になつてみよう」(要申込、先着30名) 時間:午後1時30分、約2時間 場所:志保敷地内 材料費:50円(実費)	6日(日) 体験博物館「習者になつてみよう」(要申込、先着30名) 時間:午後1時30分、約2時間 場所:志保敷地内 材料費:50円(実費)	30日(日) ミニシアター「コンサート」(当日受付、100名) 時間:午後1時30分～午後3時30分 場所:志保エントランスホール 参加費:無料
		15日(火) 「電ヶ崎A遺跡」調査報告会(当日受付、140名) 講師:小島千穂氏(福文化財保護協会会長兼主任) 時間:午後1時30分～午後5時	10日(木) 縄文時代の丸木舟に乗ってみよう(往復乗車で申込、30名) 時間:午後1時30分、約2時間 場所:近江八幡市宮ヶ浜(林崎村近江八幡西側)	
		13日(日) 記念シンポジウム(当日受付、140名) 基調講演:洲谷安彦氏(滋賀県立大学の教授) 「丸木舟、舟・津波」福文化財保護協会と近江交通(株)事例報告 時間:午後1時～午後5時	10日(日) ミニシアター「コンサート」(当日受付、100名) 時間:午後1時30分～午後3時30分 場所:志保エントランスホール 参加費:無料	

*博物館講座・シンボリズムは会場2階セミナールームで実施(無料)

テーマ展示「近江の狛犬」開催中

県内各地の古い狛犬さんが次々登場

当館では、地域の皆さんに親しまれる博物館をめざして各種の展示、催し物を実施しています。その一つとして、本年が戌年にあたるのにちなみ、常設展示室の一角に狛犬コーナーを設け、正月からテーマ展示「近江の狛犬—中世村落の信仰と造形—」を開催しています。

日本人なら、神社の参道脇に並ぶ石の狛犬を見たことのない人はいないでしょう。しかし、こうした形式が広く普及するのは近世以降のことです。それ以前は木造の二対像を社殿に安置するのが一般的でした。また、古くは「獅子・狛犬」と並称されたように、本来この二体の像は、獅子(向かって右の無角開口の阿形像)と狛犬(向かって左の有角開口の吽形像)という異種の靈獣を組み合わせたもので、近世以前の作例ではこの両者を明確に区別するケースが多かったようです。

ここ近江の地は、全国的に見ても中世に造立された木造狛犬の宝庫です。本展では、こうした中世の木造狛犬を中心に、常時二、三対ずつ陳列しています。これまでに、大津市若松神社像(平安・鎌倉)、同神田神社像(鎌倉)などのよく知られた道品から、東近江市の八坂神社像(鎌倉)や草津市志那神社像(南北朝)といった博物館初公開のものまで、十数対を展覧しました。今後さらに十対近い作品の展示を予定しています。本展を通して、狛犬の歴史的・信仰的意義や造形の魅力を感じて頂ければ幸いです。



おおてみち 第56号
平成18年(2006年)7月15日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424
E-mail: gakujei@azuchi-museum.or.jp URL: http://www.azuchi-museum.or.jp